

変わるインドネシアのイスラーム地図

見市 建

はじめに

二〇一一年前半にチュニジア、エジプトに端を発した中東の政変は「イスラーム色が薄い」、「世俗的」なものであったとの評価が一般的であると思われる。実際に各地の政権打倒を目指す運動にはイスラーム国家樹立やイスラエルとの国交断絶といった目標は掲げられず、既存のイスラーム団体も前面にはでなかった。インターネット上のソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）や衛星放送アルジャジーラが大きな役割を果たした政変は、おそらく「欧米」が想像し、恐れたイラン・「イスラーム革命」の再現からはほど遠かった。もっとも政権打倒を目指して

路上に繰り出した多くの人たちにとってみれば、イスラーム的アジェンダは抑えた、というよりはなから頭になかったのではないだろうか。急いで付け加えれば、それは政治運動の主体が「世俗的」であったということには必ずしもならない。エジプトの政変において、金曜の集団礼拝のあとのデモはとりわけ重要であったし、最大の社会勢力であるムスリム同胞団が側面で動員を支え続けた。

一九九八年に起こったインドネシアの政変も同様で、前年からのアジア通貨危機をきっかけに反体制運動が盛り上がり、スハルト政権打倒にいたったが、その主体は各大学の学生団体であった。宗教に関係なく大学別に組織された学生運動からイスラーム性を見出すのは困難であり、また既成のイスラーム団体は直接的には反体制運動に動員をしなかった。イスラーム国家の樹立といったスローガンも皆

無であった。しかし反体制運動を行っていた学生たちの多くは既成のイスラーム団体に関連する学生団体にも所属しており、また民主化後には多数のイスラーム系政党が生まれた。

インドネシアではその後民主化が定着し、一九九九年、二〇〇四年、二〇〇九年と三度の総選挙を行っている。その十数年の間に、社会的なイスラーム化はさらに進行し、宗教性が強調される場面が増えている。イスラーム金融が年々拡大し、テレビ説教師が人気を博し、音楽や映画、テレビドラマといったエンターテインメントまでもイスラーム的な内容がもてはやされている。一部のイスラーム主義武装闘争派による大規模な爆弾テロ事件も起こっている。しかし、武装闘争はむしろ急進派への反感を生んでおり、広範な支持層を得ることはできていない。またイスラーム系政党はその支持を減らしているのが現状である。

ではイスラームと政治、社会の関係をどのように捉えたらいのだろうか。本稿の目的は、世論調査など量的なデータを利用しつつ、その見方を提示することである。具体的には、サントリとアバンガン、伝統主義と近代主義、ナフダトゥル・ウラマーとムハマディアといった既成の区分概念を再検討し、それらの変化を通して現代インドネシアにおけるイスラームの位置づけを試みる。

I ムスリムの区分と組織

インドネシアは二億三万人あまりの総人口のうち、約九割がムスリムであり、世界最大のムスリム人口を誇る。長らくインドネシアのムスリムは敬虔なサントリと名目上のムスリムであるアバンガンに区分されてきた。サントリとは本来プサントレン（寄宿制のイスラーム学校）に通う生徒のことであるが、クリフォード・ギアツは敬虔なムスリム全般を指してこう呼んだ。サントリ／アバンガンの区別は一九五〇年代の政党支持に関連づけられ、サントリはイスラーム系政党を、アバンガンは世俗・ナシヨナリスト政党を支持するとされた^{*1}。アバンガンはジャワの世界観を持つとされるが、ジャワ島以外でも「世俗的」なムスリムがしばしばこう区分されてきた。

サントリはさらにナフダトゥル・ウラマー（以下NU）が組織的に代表する伝統主義とムハマディアが代表する近代主義に区分される。ここでいう伝統とは、しばしばイスラーム化以前の「土着的」要素とみなされるような習慣や儀礼、死者に向けての祈祷、聖者廟への参拝や願掛け、神秘主義の行などの宗教実践である。プサントレンは多くの場合「一国一城の主」たるウラマー（法学者、ジャワでは

キヤイという尊称で呼ばれる）によって率いられており、社会的にも大きな影響力を持つ。NUはそうしたウラマーたちのいわば寄り合い所帯である。近代主義ないし改革主義はこうした宗教実践を迷信や非イスラーム的であると否定し、またウラマーへの無批判な服従やその独占的な法解釈を批判、「本来の」イスラームに回帰すべきであるとする。イスラームは元来理性的で合理的であり、近代の諸制度や科学にも矛盾せず、むしろこれらを積極的に取り入れることで西洋からの遅れを取り戻そうとすることから近代主義と呼ばれる。伝統主義／近代主義の分裂はインドネシアに限らず、二〇世紀初頭のマレー世界では旧世代（Kamui Tua）／新世代（Kamui Muda）の対立として現れ、それぞれが組織化を進めた^{*2}。

以上の区分は現在でもある程度の妥当性があるともなされ、政治的社会的な分析枠組みとしてしばしば参照されている。しかしながら、インドネシアのムスリムを取り巻く環境はギアツの調査した時代から、ましては二〇世紀初頭のイスラーム組織の黎明期からは大きな変化を遂げている。第一にイスラーム化が進行し、サントリとアバンガンの二項対立では政治的社会的な亀裂を捉えきれなくなっている。第二に伝統主義／近代主義の関係も大きく変わった。NUに属するプサントレンでも近代的な学校制度は広く受け入れられ、他方でムハマディアに所属する知識人

も伝統主義の宗教実践を積極的に評価したり、神秘主義に接近する例が少なくな^{*3}。また両者の教義的な差異が表立って争われることはほとんどなくなった。第三に伝統主義／近代主義の二分法に当てはまらない新しい、主として政治的なイスラーム組織が登場し、その影響力を強めている。エジプトのムスリム同胞団に強い影響を受けた宣教運動から生まれた福祉正義党や国際組織である解放党やジャマア・タブリーグがそうした例である。これらの新しい組織を警戒し、ムハマディアもインドネシアに固有で「土着的な」運動として、より国際的な組織や潮流に対抗してNUと共闘するようにすらな^{*4}。第四に政党と宗教の関係に重要な変化が起きている。第一の点でも触れたように、サントリ／アバンガンの区分では政治的な分裂を捉えきれなくな^{*5}。スハルト体制を通じて圧倒的な与党であったゴルカル、そしてスハルト大統領自身も社会全体のイスラーム化に追随するかのよう^{*6}に否応もなくイスラーム化した。一九九〇年代初頭には体制側のイニシアティブによって、ムスリム知識人協会や最初のイスラーム銀行が設立された。一九九八年の民主化以降にはイスラーム系政党が多数結成された。イスラーム系政党とナシヨナリスト政党との区別は依然として存在するが、イスラーム化の進行によってナシヨナリスト政党でも必ずしも「世俗的」とはいえず、選挙運動などにおける宗教的なアピールも珍しく

なくなつた。

以上のような変化を二〇一〇年一月にJICA研究所がインドネシア調査機関(LSI)と行った世論調査や過去の選挙結果を参照しながら実証的に示していきたい。世論調査の概要は以下のとおりである。サンプルの詳細は文末の付表1に掲載した。

サンプル数 二二五〇人

回答者 一七歳以上の男女

実地調査 二〇一〇年一月二日～二月三日

標本抽出方法 三三州からの多段階層化無作為抽出法

九五%信頼区間幅は点推定値から最大でプラスマイ

ナス二・一%

調査方法 面接聴取法 人口センサスに比例

II サントリとアバンガン

1 イスラーム化の進行

サントリとアバンガンを一義的に区分するのは信仰である。サントリは敬虔で、アバンガンは名目上のムスリムであるとされる。しかし過去数十年のあいだにメッカ巡礼者やベールを着用する女性は飛躍的に増え、モスクや宗教学

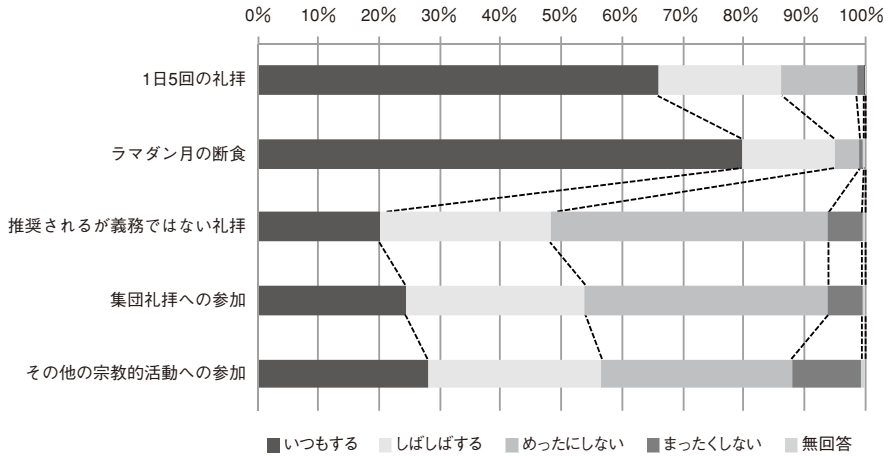


図1 宗教活動の実践頻度

校等の施設や制度が充実した。信仰が政党支持に結びつき、イデオロギー的対立が社会的分裂の一因となっていた一九五〇年代とは大きく状況が変わり、イスラームがファッションやエンターテイメントに取り入れられるまでになった。

ではいったいどれほどの人々が「敬虔」であるといえるのだろうか。世論調査では大半が一日五回の礼拝とラマダン月の断食を実践していると回答している。しかしこの結果からサントリが増えアバンガンが減った、などと断じてもあまり意味があるとは思われない。本稿では宗教活動の実践頻度と属性、政治的態度の関係性について分析をする(図1)。

さて一日五回の礼拝とラマダン月の断食に比較すると、推奨されるが義務ではない礼拝、集団礼拝に参加する、その他の宗教的活動(講話会など)への参加の頻度にはかなりバラツキがあり、ほとんど行わないとの回答が半数近くにのぼる。なお女性が集団礼拝に参加することは稀なので、男性のみであればこの割合はより高くなる。

この結果で回答者の社会的背景との相関関係を分析すると、年齢は五項目すべてと関連し、すなわち年齢が高いほど宗教儀礼に熱心であることがわかる(付表2)。女性と高学歴者がより頻繁に一日五回の礼拝と断食を行っている。ジャワでは一日五回の礼拝の頻度が高く、宗教講話会

などの活動もさかんである。他方で、都市部では一日五回の礼拝、義務ではない礼拝、集団礼拝、宗教的活動への参加の四項目ですべて負の連関をしている。都市部の住民は比較的宗教活動の実践に消極的とみなすことができる。しかしながら、高学歴者になるとむしろ積極的である。後述するように、都市の富裕・中間層は伝統主義の大衆的な宗教伝統には否定的な傾向を持っており、社会階層間で異なる宗教的傾向があることが示唆されている。

2 「敬虔さ」と政治的態度

一九五〇年代、スカルノ体制下における主要政党はイスラーム/世俗・ナシヨナリストに二分され、したがってその支持者を信仰実践によってサントリとアバンガンに区分するギアツの分析には説得力があった。すなわちサントリはイスラーム政党(マシユミ党とNU党)、アバンガンは世俗・ナシヨナリスト政党(共産党と国民党)を支持していた。ところが、一九六五年九月三〇日事件以降の共産党員の大量虐殺、翌六六年のスハルト体制発足によって政治地図は大きく変わった。共産党の活動は禁止され、スカルノの失脚によって国民党も力を失った。スカルノ時代の一九六〇年にスマトラ島の反乱への関与を取りざたされて禁止されていたマシユミ党の復活は許されなかった。さらに

一九七三年の「政党簡素化」政策によって残った世俗・ナシヨナリスト政党は民主党に、イスラーム系諸政党は開発統一党にとまとめられた。スハルト大統領はゴルカル（職能団体）による翼賛体制を敷いた。

スハルト体制下において、NUを中心とするイスラーム政治勢力は潜在的な反体制勢力として警戒された。他方でゴルカルはかつてのマシユミ党支持者などを取り込むに当たって徐々にイスラーム化することになった。NUは開発統一党のなかにあったが、一九八五年にアブドゥルラフマン・ワヒドの議長就任とともに政党活動から撤退、事実上ゴルカルを支持した。のちに大統領となるワヒドはイスラーム政治勢力の結集よりインドネシアの「多様性のなかの統一」を重視するナシヨナリストだった。宗教的マイノリティからの信頼は篤く、またインドネシアに根付いた「土着のイスラーム」の意義を強調した。

一九九八年の政変を経て、一九九九年からは五年に一度の総選挙がおおむね自由で公正に行われている。二〇〇四年からは大統領選挙も国民の直接投票となった。一九九九年総選挙においては、NUを率いるワヒドは民族覚醒党、ムハマディヤは元会長のアミン・ライスを中心に国民信託党を結成した。それぞれ宗教組織を主たる支持基盤としながらも、国民党を目指した。それまでアミン・ライスはイスラーム主義者ともみられていたが、大統領選立候補に

実践とイスラーム系政党への支持にはおよそ関連性があることが分かった（付表4）。ただし、二〇〇九年総選挙で「国民芸能人党」と揶揄される選挙キャンペーンを展開した国民信託党においては宗教活動の実践頻度と政党支持に強い関連性は見いだせなかった。またナシヨナリスト政党のなかで、宗教活動の実践頻度と政党支持に負の関連性があったのは闘争民主党だけであった。闘争民主党は他のナシヨナリスト政党と同様にイスラーム部門を設置しているが、依然として世俗的ないし非イスラーム的印象が強く、データでもそれが裏付けられている。闘争民主党はキリスト教徒の受け皿にもなっており、党首である初代スカルノ大統領の娘メガワティ自身が宗教に無頓着であることが知られている。他方でゴルカル党への支持には宗教活動の実践頻度との関連性は見いだせなかった。

したがって、「敬虔か否か」と政党支持には依然としてある程度の関連性を見いだすことができる。しかしながら従来のイスラーム/世俗・ナシヨナリスト政党の二分法では捉えられないことは明らかであり、とりわけ民主主義者党は宗教活動の実践に熱心なムスリムの支持を受けていることが分かった。



図2 2009年総選挙における民主主義者党のロゴマーク「宗教的・ナシヨナリスト」

当たっては敬虔さとともに生まれ育ったジャワの伝統を強調した^{*7}。他方、ナシヨナリスト政党もイスラーム性を強調するようになった。ユドヨノ大統領の支持母体である民主主義者党は二〇〇九年総選挙で「宗教的・ナシヨナリスト」をモットーに掲げ、大統領自身も巧みに敬虔さをアピールしている（図2）。イスラーム系諸政党は一九九八、二〇〇四年総選挙では約三〇%を得票したが、二〇〇九年総選挙では急落し、約二八%となった。著者はイスラーム系政党がナシヨナリスト政党との差異化を図れなくなった^{*8}のが一因であったと分析している。

世論調査を分析すると、前項であげた五つの宗教活動の

III 伝統主義と近代主義

1 宗教的伝統

伝統主義と近代主義を分かちつのは、宗教的伝統への解釈や指導者としてのウラマーへの支持である。二〇世紀初頭であれば、教育制度を筆頭に近代的諸制度や文化への態度が大きく異なっていたであろうが、伝統主義者のプサントレンも近代的な諸制度や国家が定めるカリキュラムを導入して久しい。世論調査では、一般的に伝統主義においてはイスラームの宗教的伝統とみなされるが、近代主義においては否定的に捉えられてきた三つの宗教儀礼（タフリラン、ズイアラ、マウリド）を行うことは正しいか否かについて尋ねている。またイスラームに反する地域的文化的は禁止されるべきかどうかを質問した（付表3）。

タフリランは「アッラー以外に神はなし」という信仰告白やコーランの一節を死者に唱える儀礼、ズイアラは願掛けなどのために聖者廟や過去の王族やウラマーを慕参すること、マウリドは預言者ムハンマドの生誕祭である（写真1）。アッラー以外のものを拝んだり、コーランに根拠がないなどの理由から否定的な見解もある。当然のことなが

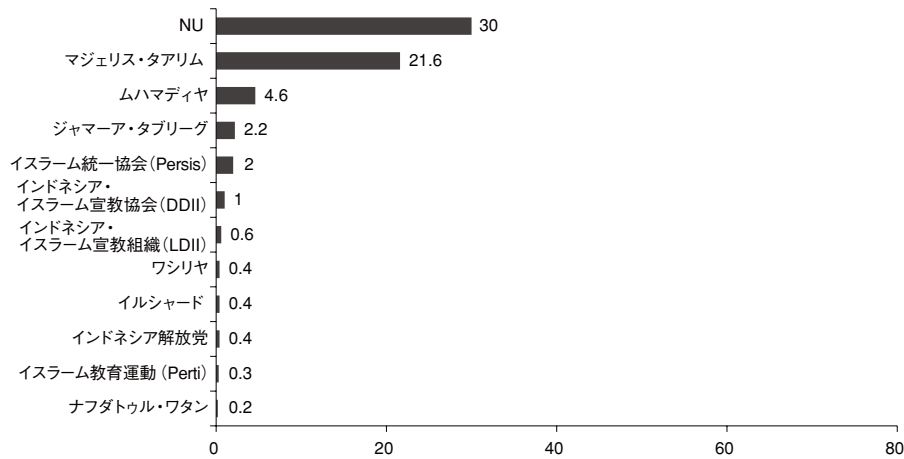


図3 宗教組織への所属



写真1 数千人を集めたジャカルタでのマウリド (預言者ムハンマドの生誕祭) の様子

ら、NUに帰属意識をもつ回答者は三つの宗教儀礼に肯定的である。他方でムハマディヤのメンバーはタフリランに肯定的である。

注目すべきなのは、高学歴で都市の回答者はタフリランやズイアラに否定的なことである。高学歴と高収入の回答者はイスラームに反する地域文化の禁止にも賛成で、逆にジャワでは地域文化への許容度が高く禁止には否定的であった。イスラーム化を強めた都市中間層は、大衆的で、土着的 (あるいはジャワ的) とみなされうる宗教儀礼には否定的であるといえそうである。

2 組織的所属

インドネシアのイスラームについての概説書にはほぼ間違いなく、二大組織として伝統主義と近代主義を代表するNUとムハマディヤが掲載されている。両組織のメンバーは数千人などとも言われるが、NUには公式な会員登録などはなく、ムハマディヤに帰属意識を持つ大半のメンバーも公式な登録をしていない¹⁰。世論調査では回答者の三〇%がNUの、四・六%がムハマディヤのメンバーであると答えている (図3)。NUやムハマディヤへの帰属意識は多分に文化的なものであり、共通の宗教実践や家族や地域共同体によって継承されてきた。世論調査では活発な (アクティブ) / 不活発な (アクティブでない) メンバーの区分をしているが、いずれも後者の不活発なメンバーの方が多い結果になっている。

政党支持においては、NUとムハマディヤへの所属はそれぞれの指導者らが設立した民族覚醒党 (PKB) と国民信託党 (PAN) への支持との関連が見られた (付表4)。NUのメンバーはまたスハルト時代から継続する開発統一党 (PPP) を支持しており、他方で国民信託党、ゴルカル党 (Golkar)、闘争民主党 (PDIP) への支持には負の相関関係が認められた。

本調査の特徴的な点はこれまで視野に入っていなかったいくつかの組織を選択肢に加えたことである。ムハマディヤを大きく上回って二〇%以上の回答者がメンバーだと答えたマジェリス・タアリムは単一の組織ではなく、多くは小規模で地域的、多様な宗教講話会や勉強会を指す。一般的には女性の活動家が大半であるとみなされている。マジェリス・タアリムには全国的な連絡組織 (Badan Kontak Majelis Taklim) があるが、この傘下には組織や集団は多数ある。たとえば、中ジャワの中都市ソロにおいてはコーラン解釈評議会 (MTA, Majelis Tafsir Al Quran) がNUやムハマディヤを凌ぐ最大規模の組織である。こうした集団がしばしばマジェリス・タアリムと総称されており、本調査の回答者にも多く含まれていると思われる。NUとムハマディヤという「二大組織」には還元できない多様な組織的な実態があるのである。なおマジェリス・タアリムのメンバーのうち約三三%はNUと五%弱はムハマディヤと重複して所属意識を持っており、その所属は排他的なものではない。マジェリス・タアリムのメンバーはイスラームに反する地域的伝統の禁止には強く賛成しているが、ズイアラ (墓参) など前出の伝統主義的な宗教儀礼には概ね肯定的である (付表3)。

マジェリス・タアリムを分析に加えることで明らかになったのもっとも重要な点は、その政党支持の傾向である。

概ね都市部で高学歴、マジエリス・タアリのメンバーが福祉正義党(PKS)、国民信託党、民主主義者党(PD)の三政党を支持していることが明らかになったのである(付表4)。ウドヨノ大統領の支持基盤である民主主義者党はいわゆるナシヨナリスト政党であるにもかかわらず、マジエリス・タアリのメンバーを惹きつけている。ウドヨノ大統領が自身の敬虔さをアピールする戦略は一定程度成功していることがうかがえる。前段で述べたソロのコーラシ解釈評議会(MTA)は二〇〇九年総選挙の直前に新しい本部ビルを完成させたが、ウドヨノ大統領が竣工式に駆けつけた上に、同ビルのまわりは民主主義者党のカラーである青一色に飾り付けられた。こうしたまとまった「票田」に対する接近はイスラーム政党か否かを問わずなされる。

なお、前述のように都市部の住民は大衆的あるいは伝統主義的な宗教儀礼には否定的な傾向があり、肯定的なマジエリス・タアリのメンバーとは異なる宗教観を持っている。他方でマジエリス・タアリのメンバーは伝統主義のNUメンバーが設立した民族覚醒党への支持には負の連関をしている。すなわち大衆的な宗教儀礼に対する態度は必ずしも政党を選ぶ基準になっていない。

二つの対照的な国際組織ジャマア・タブリーグと解放党(ヒズブ・タブリール)のおおよその規模も初めて明らかになった。

おわりに

これまでの分析から、インドネシアのイスラームを分析し区分するツールとして使われてきた既存の二分法(サントリ/アバンガン、伝統主義/近代主義)は少なからぬ変更を迫られていることが確認された。組織的にはNU/ムハマディヤには収まらない多様な実態がある。

イスラーム化の進展により、「敬虔さ」は社会的な重要度を増し、ナシヨナリスト政党のキャンペーンにも必要不可欠な要素となった。宗教活動の実践頻度はイスラーム系政党への支持と関連性があるが、逆にナシヨナリスト諸政党のなかで負の相関関係にあったのは闘争民主党のみであった。民主主義者党への支持には地域的で多様な小集団からなるマジエリス・タアリの所属との相関関係が認められた。

宗教活動の実践頻度、大衆的な宗教儀礼、政党支持においていずれも重要な要素として浮かび上がってきたのは、教育、収入、都市/農村といった社会的属性であった。都市住民は宗教活動の実践頻度において負の相関関係があった。しかし高学歴者は宗教活動に熱心な傾向があり、他方で大衆的な宗教儀礼には否定的でイスラームに反する疑い

かになった。一九二〇年代に始まった宣教運動であるジャマア・タブリーグはバキスタンに本部がある組織である。基本的な信仰概念の学習、ムスリム同胞への敬愛、誠実と敬虔さの追求といった理念をタブリーグ(宣教)するこの組織は、東南アジアで広く観察されている^{*1}。しかし一貫して政治的問題への関与を慎む方針をとっている^{*2}。その規模や影響力を測るのが難しい。世論調査では回答者の二・二%がメンバーだと答えており、インドネシアの既存組織を凌ぐ規模があることがわかった。解放党は一九五〇年代にヨルダン・パレスチナで結成され、ムスリムを世界的に代表する政治権力(カリフ制)の「再興」を目指している。この理想主義的な政治目標を掲げる組織は、たびたび集会や路上でのデモを行っている。大学キャンパスを中心に拡大し、総選挙で七%以上の支持を得ている福祉正義党とのライバル関係も伝えられているが、世論調査でメンバーだと回答したのは〇・四%に留まった。その他、過激な行動からメディアを賑わすジャマア・イスラミヤ(JI)やイスラーム防衛戦線(FPI)などの組織の規模はさらに小さい(調査には含めなかった)。

がある地域文化の規制に肯定的であった。政党支持においても、福祉正義党と国民信託党というイスラーム系政党とナシヨナリスト政党の民主主義者党の支持者の社会的属性には共通点が多かった。

インドネシアのイスラームは一九世紀末からの近代化とともに組織化が進み、二〇世紀後半の急速な都市化に適応的なイスラーム化が進んできた。近年の経済発展による中間層の大幅な拡大は既存の組織に囚われないイスラーム化や政党への支持を生み出している。本稿では量的データに基づいて議論を進めたが、フィールドにおける質的な調査との往復運動を欠かすことができないことを付言しておきたい。

●注

*1 Clifford Geertz, *The Religion of Java*, Chicago: University of Chicago Press, 1960.

*2 伝統主義と近代主義の区分から二〇世紀におけるイスラームの展開を分析したものと以下を参照。中村廣治郎『イスラームと近代』一九九七年、岩波書店。

*3 代表的な例としてはジャワ文化を重視するガジャマダ大、学教授で文学者のクントウィジヨ(一九四三〜二〇〇五)、スーフィズムに造詣が深く、シリア派に傾倒するともいわれるバンドウンのジャラルディン・ラフマトがいる。

*4 本世論調査はJICA研究所による研究プロジェクト

付表1 世論調査の標本の内容

カテゴリー	サンプル割合	BPS
性別		
男性	50.0	50.0
女性	50.0	50.0
都市／農村		
農村	59.6	59.4
都市	40.4	40.6

カテゴリー	サンプル割合	BPS
宗教		
イスラーム	89.3	87.0
キリスト教	8.5	10.0
その他	2.2	2.0
エスニシティ		
ジャワ	40.7	41.6
スダ	16.8	15.4
マレー	4.6	3.4
マドゥラ	4.1	3.4
ブギス	1.9	2.5
ブタウィ	2.4	2.5
ミナンカバウ	3.3	2.7
その他	26.2	28.5

カテゴリー	サンプル割合	BPS
州		
アチェ	2.2	2.0
北スマトラ	5.8	5.8
西スマトラ	2.2	2.1
リアウ	2.2	2.2
ジャンビ	1.3	1.3
南スマトラ	3.1	3.3
ベンクル	0.9	0.8
ランブ	3.1	3.3
バンカーブリティウン	0.4	0.5
リアウ群島	0.4	0.6
ジャカルタ	3.1	3.3
西ジャワ	17.3	17.2
中ジャワ	14.7	14.8
ジョグジャカルタ	1.3	1.5
東ジャワ	16.4	16.4
バンテン	4.0	4.1

カテゴリー	サンプル割合	BPS
州		
バリ	1.3	1.5
西ヌサトゥンガラ	2.2	2.0
東ヌサトゥンガラ	2.2	2.0
西カリマンタン	1.8	1.9
中カリマンタン	0.9	0.9
南カリマンタン	1.3	1.5
東カリマンタン	1.3	1.4
北スラウェシ	0.9	1.0
中スラウェシ	0.9	1.1
南スラウェシ	3.6	3.4
東南スラウェシ	0.9	0.9
ゴロンタロ	0.4	0.4
西スラウェシ	0.4	0.5
マルク	0.9	0.6
北マルク	0.4	0.5
パプア	1.3	1.2
西パプア	0.4	0.3

(注) BPS はインドネシア統計局による人口センサスの割合。

「東南アジアにおけるイスラームの位置」(二〇〇八～二〇一一年度、代表：飯塚正人東京外国語大学教授)の二環として四カ国で行われた。筆者は質問項目の作成から調査に携わっている。

*5 イスラームの制度的充実やエンターテイメント化についてはひとまず以下の拙著第四章を参照のこと。見市建『インドネシア イスラーム主義のゆくえ』平凡社、二〇〇四年。

*6 二〇〇一年、二〇〇二年にLSIが行った調査でも同様の結果が得られている。Saihu Mujani, Muslim Demokhr: Islam, Budaya Demokrasi, dan Partisipasi Politik di Indonesia *Pasta-Orda Baru*, Jakarta: Gramedia, 2007, pp.93-97.

*7 『誠実に率いる』と題された公式の評伝の第一章は「ソロ出身のワヤン愛好者」であった。ジャワの影絵劇ワヤンはイスラームの宣教に使われたともされるが、ヒンドゥー教の叙事詩マハーバータとラーマヤナを題材とし、しばしば非イスラーム的伝統の一つとみられる。Zaini Uchrowi, *Mohammad Anien Rais: Memimpin dengan Nurani*, Jakarta: Teraju, 2004.

*8 短期的にはイスラーム系政党とくに民族覚醒党の内部分裂が、長期的にはウラマーの相対的な影響力低下が原因であると指摘している。見市建「イスラーム化の進捗とイスラーム系政党弱体化の矛盾」本名純・川村晃一編『二〇〇九年インドネシアの選挙——ユドヨノ再選の背景と第二期政権の展望』アジア経済研究所、二〇一〇年、一〇九～一二九頁。

*9 中村光男によれば二〇〇〇年の時点でムハマディヤに正式に登録されている会員は一七万人であった。"Nahdlatul Ulama, Muhammadiyah not in 'all-out' war," Jakarta Post, 8

January 2001.

*10 LSIによる二〇〇三年の調査でも同様の結果を得ている。見市建『インドネシア イスラーム主義のゆくえ』平凡社、二〇〇四年、一〇二頁。

*11 大石高志「タブリーギー・ジャマアト」、私市正年『ジャマア・アッヒタブリーグ』、大塚和夫他編『岩波イスラーム事典』岩波書店、二〇〇二年、六一三、四六三頁。

●謝辞

世論調査の分析においては、JICA研究所の三上了研究員の全面的な協力をいただいた。山形大学の浜中新吾准教授には貴重なコメントをいただいた。篤くお礼申し上げたい。

(みいち・けん／岩手県立大学総合政策学部)

付表4 支持政党と社会的属性の相関関係 (二変数分析)

	PKS	PAN	PKB	Golkar	PPP	PDI-P	PD	Hanura	Gerindra
性別	-0.031 n=1843	-0.088 n=1843	-0.021 n=1843	-0.077 n=1843	-0.044 n=1843	-0.100** n=1843	0.060 n=1843	-0.036 n=1843	-0.054 n=1843
年齢	0.009 n=2046	0.001 n=2046	0.010 n=2046	0.038 n=2046	0.021 n=2046	0.018 n=2046	-0.070*** n=2046	0.003 n=2046	-0.026 n=2046
学歴	0.099*** n=1842	0.063*** n=1842	-0.043** n=1842	-0.020 n=1842	-0.025 n=1842	-0.095*** n=1842	0.078*** n=1842	0.027 n=1842	-0.023 n=1842
世帯収入	0.053** n=1811	0.025 n=1811	-0.026 n=1811	-0.007 n=1811	-0.009 n=1811	-0.104*** n=1811	0.070*** n=1811	-0.003 n=1811	0.005 n=1811
都市	0.137** n=1843	0.121* n=1843	0.009 n=1843	-0.174*** n=1843	-0.039 n=1843	-0.009 n=1843	0.089** n=1843	0.107 n=1843	-0.066 n=1843
ジャワ	0.076 n=1843	-0.114* n=1843	0.201*** n=1843	-0.225*** n=1843	0.050 n=1843	0.342*** n=1843	-0.064* n=1843	-0.207* n=1843	-0.073 n=1843
NU	-0.068 n=1807	-0.248*** n=1807	0.511*** n=1807	-0.165*** n=1807	0.212*** n=1807	-0.088* n=1807	-0.017 n=1807	0.023 n=1807	-0.130 n=1807
ムハマディヤ	0.085 n=1790	0.578*** n=1790	-0.267* n=1790	-0.046 n=1790	-0.190 n=1790	-0.023 n=1790	-0.100 n=1790	-1.000 n=1790	0.007 n=1790
マジェリス・タアリム	0.122* n=1757	0.160** n=1757	-0.179** n=1757	-0.019 n=1757	0.099 n=1757	-0.200*** n=1757	0.118*** n=1757	-0.042 n=1757	-0.029 n=1757
敬虔さ	0.079** n=1819	0.058* n=1819	0.086*** n=1819	-0.018 n=1819	0.094** n=1819	-0.078*** n=1819	0.022 n=1819	-0.016 n=1819	-0.012 n=1819

(注) 数値は相関係数。属性変数(表側)が二値の場合はテトラコリック相関係数、順序ないし間隔尺度変数の場合はバイシリアル相関係数で算出。相関係数は変数の組み合わせごとに利用可能なサンプルで算出。組み合わせごとに少なくともどちらかの変数が欠損している場合は捨象。nはサンプルサイズ。性別(1=女性、0=男性)、年齢層(9段階間隔尺度)、学歴(10段階順序尺度)、世帯収入(5段階間隔尺度)、都市(1=都市、0=農村)ジャワ(1=ジャワ地域居住、0=非ジャワ地域居住)、NU(1=NUの活発な、あるいは名目的な構成員、0=NUの構成員ではない)、ムハマディヤ(1=ムハマディヤの活発な、あるいは不活発な構成員、0=ムハマディヤの構成員ではない)、マジェリス・タアリム(1=マジェリス・タアリムの活発な、あるいは不活発な構成員、0=マジェリス・タアリムの構成員ではない)、敬虔さ(宗教活動実践頻度に関する五つの質問への回答の第一主成分得点)、支持政党(1=その政党に投票した、0=その政党に投票しなかった)。

*** $p < .01$, ** $p < .05$, * $p < .10$

世論調査の分析結果

付表2 宗教活動の実践頻度と社会的属性の相関関係 (二変数分析)

	1日5回の礼拝	ラグマン月の断食	推奨されるが義務ではない礼拝	集団礼拝への参加	その他の宗教的活動への参加
性別	0.109*** n=2005	0.085*** n=2002	-0.015 n=2001	-0.217*** n=2001	0.040** n=1996
年齢	0.187*** n=1987	0.051** n=1984	0.234*** n=1984	0.184*** n=1983	0.207*** n=1978
教育	0.069*** n=2001	0.087*** n=1998	0.029 n=1997	0.010 n=1997	-0.016 n=1992
世帯収入	0.026 n=1967	0.040* n=1965	-0.003 n=1963	-0.022 n=1963	-0.015 n=1958
都市	-0.017 n=2005	0.002 n=2002	-0.022 n=2001	-0.077*** n=2001	-0.021 n=1996
ジャワ	0.124*** n=2005	-0.015 n=2002	0.018 n=2001	0.008 n=2001	0.079*** n=1996

(注) 数値は相関係数。属性変数(表側)が二値の場合はバイシリアル相関係数、順序ないし間隔尺度変数の場合はスピアマン順位相関係数で算出。相関係数は変数の組み合わせごとに利用可能なサンプルで算出。組み合わせごとに少なくともどちらかの変数が欠損している場合は捨象。nはサンプルサイズ。性別(1=女性、0=男性)、年齢層(9段階間隔尺度)、学歴(10段階順序尺度)、世帯収入(5段階間隔尺度)、都市(1=都市、0=農村)ジャワ(1=ジャワ地域居住、0=非ジャワ地域居住)、宗教活動の実践頻度(4=定期的にする、3=しばしばする、2=めったにしない、1=全くしない)。*** $p < .01$, ** $p < .05$, * $p < .10$

付表3 宗教儀礼に関する態度と社会的属性の相関関係 (二変数分析)

	イスラームに反する 地域的文化的禁止	タフリラン	ズィアラ	マウリド
性別	0.005 n=1867	0.019 n=1959	-0.001 n=1959	0.003 n=1954
年齢	-0.015 n=1851	0.008 n=1941	0.013 n=1941	-0.051** n=1936
学歴	0.075*** n=1863	-0.071*** n=1955	-0.044* n=1955	0.043* n=1950
世帯収入	0.073*** n=1834	-0.041* n=1923	-0.016 n=1923	0.057** n=1919
都市	0.002 n=1867	-0.207*** n=1959	-0.163*** n=1959	-0.113*** n=1954
ジャワ	-0.143*** n=1867	-0.024 n=1959	-0.019 n=1959	-0.064** n=1954
NU	-0.028 n=1836	0.191*** n=1925	0.158*** n=1925	0.124*** n=1920
ムハマディヤ	-0.003 n=1821	-0.126*** n=1908	0.004 n=1907	0.013 n=1904
マジェリス・タアリム	0.111*** n=1802	0.020 n=1877	0.057* n=1878	0.073** n=1875

(注) 数値は相関係数。属性変数(表側)が二値の場合はバイシリアル相関係数、順序ないし間隔尺度変数の場合はスピアマン順位相関係数で算出。相関係数は変数の組み合わせごとに利用可能なサンプルで算出。組み合わせごとに少なくともどちらかの変数が欠損している場合は捨象。nはサンプルサイズ。性別(1=女性、0=男性)、年齢層(9段階間隔尺度)、学歴(10段階順序尺度)、世帯収入(5段階間隔尺度)、都市(1=都市、0=農村)ジャワ(1=ジャワ地域居住、0=非ジャワ地域居住)、NU(1=NUの活発な、あるいは名目的な構成員、0=NUの構成員ではない)、ムハマディヤ(1=ムハマディヤの活発な、あるいは名目的な構成員、0=ムハマディヤの構成員ではない)、マジェリス・タアリム(1=マジェリス・タアリムの活発な、あるいは名目的な構成員、0=マジェリス・タアリムの構成員ではない)、宗教行事に関する態度(5=強く賛成、4=賛成、3=どちらでもない、2=反対、1=強く反対)。

*** $p < .01$, ** $p < .05$, * $p < .10$